

2021年 秋の叙勲

川田順造先生 文化勲章

山口仲美先生 文化功労者

おめでとうございます！

2021年秋の叙勲で、埼玉大学で助教授として務められた川田順造先生が文化勲章を受章、また、埼玉大学名誉教授の山口仲美先生が文化功労者に選ばれました。おめでとうございます。

川田順造先生の文化勲章受章をお祝いして
中牧 弘允
(70年卒 文人)

川田順造先生が文化勲章の栄に浴され、2021年11月3日、皇居において天皇陛下から直接、勲章を授与されました。しかも巨人軍の長嶋茂雄氏と同様、車椅子に座ったまま親授式に臨まれました。「ミスター・ジャイアンツ」にあやかることすれば、「ミスター文化人類学」と称しても過言ではないかも知れません。

というのも、民族学・文化人類学の分野でこれまで文化勲章を受章した人物は2人いますが、梅棹忠夫(1994)は民族学、中根千枝(2001)は社会人類学だったからです。川田先生の受章理由は「西アフリカの無文字社会の調査から『口頭伝承論』という研究領域を開拓した」ことにあります。とりわけ「太鼓ことば」に着目し、非文字コミュニケーションの分析をおこなったことは世界的にみても画期的でした。さらに、「文化の三角測量」という、フランス、アフリ



2021年12月19日祝賀会で先生を囲んで

カ、日本を定点観測するユニークな方法論を提示したことも高く評価されています。また、フランスの民族学者クロード・レヴィ・ストロースの『悲しき熱帯』の翻訳をはじめ、同氏との知的交流でも論壇をリードしてきました。

川田先生は教養学部の創設期に石田英一郎教授のもとで助教授に就任し、1966年から70年にかけて4年ほど学生を教育・指導しました。その警咳に接した有志が昨年の暮れ、ご自宅に近い湯河原に相集い、フレンチ・レストランでランチの祝賀会を催しました。参集したのは須藤健一(1期)、関根増男(1期)、中牧弘渡邊欣雄(1期)、中牧弘

允(2期)、大越公平(4期)、峰崎進(4期)、飯塚好(5期)の7名です。川田先生は奥様に付き添われ、「安楽(肘掛)椅子の人類学者」(armchair anthropologist、「二次資料」のみを使うと批判された初期の人類学者)ならぬ「車椅子の人類学者」(wheelchair anthropologist)として現れました。身体は多少不自由になっていましたが、頭脳の明晰さと回転の速さは以前と変わりありませんでした。

まず参加者を代表し須藤さんが川田先生の30点に及ぶ単著刊行の偉業をたたえたあと、『文化を交叉させるー人類学者の眼』(2010)に序文を寄せた恩師レヴィ・ストロースも「現代の人類学の中で、別格の位置を占めている」と絶賛しているとの祝辞を述べ、シャパンで祝杯をあげました。そのあと順次、川田先生との関係や草創期の思い出などを語り、楽しいひと時を過ごしました。

ひとつの話題は地理学からの「転換」でした。地理学を志望したのに、総合文化課程では文化人類学が必



文化勲章を祝う会の後の旅館で

ルド・ワークのことなど、話題は尽きませんでした。ところで、川田先生は『曠野から』(1974)で日本エッセイスト・クラブ賞を受賞されたほど達意の文章でも知られ、教科書や試験問題に多く採用されています。しかも驚いたことに、教科書での採択件数は夏目漱石に次いで2位であるとのこと。「太鼓ことば」の極意をわきまえているせいか、児童や生徒の心にも打てば響く言葉をもっているようです。「出藍の誉れ」は理想ですが、不肖の弟子たちには高い壁が立ちました。学部の時代のフランス語やレヴィ・ストロースのように、今でも「ミスター文化人類学」が。

(文責：中牧弘允)

けやき会 会長あいさつ

けやき会会長 岡田 道程

まず、教養学部長の野中進先生が、再選され、さらに2年間学部長職をつづけられること、おめでとうございます。野中先生には、この2年間だけでなく、それ以前からけやき会ではずっとお世話になっております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

さて、この2年間、全国のこの大学も新型コロナウイルス感染症の対応に忙殺されてきました。オンライン授業が、当たり前になり、時折感染が収まる時だけ、対面式授業が行われるというあり様です。授業や勉学の面では、遜色なくカバーできますが、教員との直接の触れ合いやクラスメートとの会話が不十分なのは、本当に気の毒です。部活動も一部を除いてほとんどできないのが現状です。

そんな中、同窓会のけやき会も、春の総会・講演会・



懇親会が2年連続で開催できまじせんでしたが、昨年のホームカミングデーだけは、オンライン形式で何とか実施することができました。けやき会では、今年も活動の中心として埼玉大学教養学部と在学生にフォーカスして努力したいと考えております。

具体的には、オンラインによる初の総会、教養学部教育研究支援金、けやき会による学生顕彰「けやき賞」の授与、経済事情に代わって今年新たにリニューアルする大学寄附講義、卒業生による就職支援活動である「就活ゼミ」、すべての同



緑溢れる母校キャンパス

窓生を対象にした「さきたま塾」ZOOM講座、けやき会「ホームページ」による様々な情報発信、会報「けやき会」の発行、新入生用「けやき会パンフレット」等です。会議はすべてZOOMで行っています。

全学的な埼玉大学同窓会の活動では、埼玉大学ホームカミングデーを今年こそは対面で実施したいと考えております。また昨年、一昨年とコロナ禍において困窮した埼玉大生のための支援策として、2年連続、全学部的に同窓会で義援金を出し合い、学生、大学から感謝されたことも付け加えたいと思います。このようにけやき会では、できる範囲で、場合によってはコロナ以前よりも活発に活動をつづけています。

4月末には、8年ぶりに「けやき会名簿」(2022年度版)が刊行されます。けやき会では、この間、1年をかけて準備に取り組んできました。埼玉大学教養学部、埼玉大学大学院人文社会科学研究所の卒業生、在校生。そして埼玉大学文学部文学科・人文科、埼玉

大学大学院文化科学研究科の卒業生の皆さん、さらには、教養学部等の旧教員、現教員もすべて網羅した最新版の名簿です。どうぞご期待ください。(ご希望の方で、まだ申し込まれていない方は受け付けております。)

今年も、皆さまのご支援、ご協力を切にお願い致します。

